学校番号

⑤

令和２年度　学校自己評価表　（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

福岡県立京都高等学校長　　印

（定時制課程）

学校運営計画（４月）			評価（３月）
学校運営方針	ＡＰ（本校が求める生徒像）　・真理と正義を重んじ、心身ともに健康で豊かな心と高い志を持ち、社会に寄与できる生徒。		
	ＣＰ（本校が展開する教育活動）・一人一人の進路実現に向けて、学習意欲の向上と確かな学力の育成を図る。 ・社会人として自立することの意義を理解させることで進路意識を高め、４年間を通したキャリア教育の充実を図る。		
	ＤＰ（本校を卒業するまでに身に付けさせる力）・自分の考えをわかりやすく相手に伝える力。基礎学力の充実、自発的・主体的に学習を進める力。		
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
新たに「食育講座」や「がん教育」などの取組を行い、自らどう生きていくか考える機会を様々な場面で作ることができた。本年度も「主体的・対話的で深い学び」を中心に据えた魅力ある授業づくりを実践していく必要がある。 進路指導についてはハローワークとさらに連携を深め、地元企業との関係づくりを深めていく。また、「働くことの意義」について学ぶことで進路意識を高め、生徒一人一人の資質・能力が生かせる進路実現につなげる。そのため入学から卒業までに学校行事や様々な体験活動を取り入れ、体系的かつ具体的なキャリア教育の	「徹底」と「根拠」を意識した教育を展開していく。	・「生きる力」を育むための基礎学力の定着を意識した授業改善を行う。	
		・生徒一人一人の「主体的・対話的で深い学び」を授業態度やレポート等で評価し、振り返る。	
	定期的な生徒・保護者等との面談だけでなく、日常的な関わりの中で生徒の状況を把握し、全職員で共有する。	・全職員で生徒・保護者等との関わりを密にして情報を共有し、必要に応じてSSWとの連携を図る。	
		・生徒一人一人の実情に合わせた学年（学級）経営、教科指導を行う。	
	『学力の３要素』（知識・技能、思考力・判断・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ力）を育成・評価する。	・ペアやグループで討論したり、協力したりする経験を積み重ねる学校行事を実施する。	
		・「基礎力」「知識を応用する力」「学ぶ態度」の育成を図り、適宜評価を行い、振り返る。	
	成年年齢の引き下げに伴う教育の充実を図る。	・規範意識育成学習（薬物乱用防止教育、交通安全教育等）、消費者・主権者教育の充実を図る。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教科指導	授業内容を充実させる。	「主体的・対話的で深い学び」の実現のために自分の言葉で発表できるような授業づくりを行う。				
		授業内容の精選やICTの活用により生徒の興味・関心を高め、学びの楽しさを実感できるような工夫をする。				
	授業規律の確立を図る。	単位未修得者を出さないために、主体的に学ぶ態度の育成をめざす。				
		欠席や授業の欠課をしっかりと把握し、家庭との連絡を密にして怠学による原級留置の防止に努める。				
	3年修業支援を充実させる。	併修生のレポート提出・スクーリング出席・考査受験についての相談体制の充実を図る。				
生徒指導	学校生活を通して自己の生活を安定させ、多様性を身に付けさせる。	異なる年齢や職業など多様な差異から学びあう関係づくりを行う。				
		学校生活を通して自己の生活習慣を確立させ、仕事と学業の両立を目指す。				
	生徒会活動の活性化により社会に寄与できる力を高める。	生徒会主導による美化活動を通して安全・快適な生活環境作りとマナーアップを図る。				
		生徒一人一人の実情に合わせた活躍の場を設定し、その喜びを共有させる。				
進路指導	「学ぶこと」・「働くこと」の意義を理解させ、進路意識を高める。	ハローワーク・地元企業との連携によって在校生の職場開拓に努める。				
		外部講師・卒業生等による講話を通して 、「学ぶこと」「働くこと」の意義を実感的に理解させる。				
	希望進路を具体化させ、その実現を通して自らの生き方について考えさせる。	勤労体験を充実させ、企業訪問を行うことで自己実現に向かわせる。				
		さまざまな進学情報（大学・短大・専門学校・高等技術専門校等）の提供に努め進路選択の幅を広げる。				
		職場訪問を通して生徒の勤労意欲を高めるとともに、企業との関係性を深めて求人開拓につなげる。				
	特別な支援を要する生徒の進路に配慮する。	「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、生徒の資質・能力が生かせる進路実現を支援する。				
安全・健康指導	安全指導を徹底する。	生徒の安全確保のため、登下校指導を実施するとともに、駐輪場の利用に関する指導を実施する。				
	健康教育を推進する。	薬物乱用防止教育及び性教育等の外部講師講演を実施し、将来を見据えた生活の質の向上を図る。				
		給食指導の徹底を通して食事のマナーの向上や基本的生活習慣の確立を図る。				
	教育相談を充実させる。	SSWやSCを積極的に活用し、全職員で生徒の抱える問題や課題等の周知・対応を図る。				
自尊感情の育成	ホームルーム活動、学校行事を活性化し、帰属意識を高め、自尊感情を育てる。	生徒の意見を聞くことで主体的に活動できるものを計画させ、生徒の自主性や課題解決能力を養う。				
		学校行事の充実を図り、クラスや学校への帰属意識を高め、生徒が楽しく登校できるようにする。				
		生徒が自らを振ることで自尊感情を高めるような学校通信やホームページを作成する。				
	特設授業の充実を通して、差別を見抜き、差別に負けない生徒を育てる。	副読本「あおぞら」「かがやき」を積極的に活用し、他者の思いを想像できる力を高めていく。				
		特設授業の事前事後研修を実施し、相互の実践交流を図ることで授業力を高めていく。				
		いじめ、不登校や問題行動などへの早期対応に向け、情報交換を密にし職員全体の意思疎通を図る。				